

(公表用)

岩手県福祉サービス第三者評価の結果

1 第三者評価機関

名称	社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会	認証番号	第2号
所在地	盛岡市三本柳8-1-3	評価実施期間	平成25年6月1日～11月1日

2 事業者情報

事業者名称：たばしね学園 (施設名)	種別：福祉型障害児入所施設
代表者氏名：理事長 藤原 健一 (管理者) 施設長 千葉 亨	開設年月日 昭和44年4月1日
設置主体：社会福祉法人 岩手県社会福祉事業団 経営主体：社会福祉法人 岩手県社会福祉事業団	定員(利用人員) 50名
所在地：岩手県奥州市前沢区田畠18-5 TEL 0197-56-2160 FAX 0197-56-6471	

3 総評

<p>◇ 特に評価の高い点</p> <p>○ 在宅福祉サービスや施設機能を生かした地域との交流</p> <p>障がい児の施設入所支援のみならず短期入所、日中一時支援、放課後等デイサービス、相談支援事業所など、住民の福祉ニーズに即した施設機能を生かした様々なサービスも実施している。</p> <p>また、「おもちゃ図書館」や「おもちゃ病院」は地域のボランティアの支援で実施されており、おもちゃを媒体に施設を開放し、地域の児童等も心身の健全な発達を促進できるよう利用の機会が提供されている。これら取り組みは、住民の福祉ニーズ把握・支援、住民との交流、施設への理解促進となり、地域の児童・障がい児の福祉の拠点として高く評価できる。</p> <p>◇ 改善が求められる点</p> <p>○ 今後の施設のあり方についての検討</p> <p>県南唯一の福祉型障害児入所施設であり、発達障害児童の増加に伴う利用児童数は増加傾向にあるが、施設の経営が厳しい状況にあるため、平成28年度からの自主・自立に向けての経営の難しさが予想されている。そのため、事業団として県と児童入所施設のあり方について協議中であり、たばしね学園では職員会議で財務等分析を行うなど積極的な取り組みも行われている。</p> <p>今後は、障がい児の多様化に伴う支援の困難さから、支援力の向上が求められており、併せて今後の事業及び経営の安定を目的とした障害児入所施設のあり方の検討も必要と考えられるので、今後の取組みに期待したい。</p>
--

4 第三者評価結果に対する事業者のコメント

(1) 施設のコメント

たばしね学園の福祉サービス第三者評価受審は、今回が4回目になります。受審の都度、改善すべき課題が明らかになり、課題改善に取り組むことによって確実にサービスの質の向上につながっており、今回も前回(平成21年度)より高い評価となりました。

今回の評価では、①アクションプランの策定とそのプロセスマネジメントの取り組み、②発達障がい支援などの専門性向上を目的とした職員研修、③住民福祉ニーズに即し、施設機能を生かしたサービスの実施、④食事提供の工夫等について、特に高い評価をいただきました。今後は、これらを事業所の強みとして、より一層のサービス向上に努めてまいります。

また、児童委員との連携の取り組み、事業及び経営の安定化、マニュアル等の定期的な見直し、個人情報保護に関する研修、学習プログラムの取り組みについては、改善を求められました。今回指摘いただいた項目については、サービス改善委員会で検討し、着実にサービス改善に取り組んでまいります。特に今後の事業及び経営の安定を目的とした障害児入所施設のあり方の検討については、県南地域における唯一の福祉型障害児入所施設としての役割を担うためにも、県との協議を継続してまいります。

(2) 法人本部のコメント

ア 中長期経営基本計画について

当事業団は、平成23年度に策定した中長期経営基本計画の着実な推進を図り、適切なサービス提供に努めてまいりました。各施設でこの計画を反映させた事業を展開していること、プロセスマネジメント会議で計画の進捗状況の確認・評価をしていることなどについて、「計画推進に向けた様々な取り組みを組織的に展開している」との評価を受けました。今年度は同計画の前期実施計画の中間見直しの年度でもあることから、進捗状況の評価、振り返りを行い、社会情勢等の変化に応じ計画の修正を行ったところ。見直した計画に基づき、より一層お客様本位の質の高いサービスの提供に努めてまいります。

イ 法人として検討中の取り組みについて

法人の自立に向け、非正規職員制度の見直しを進めていることについては評価いただいた一方で、障害児入所施設のあり方について、県と協議を進めていることについては、期待を込めて「改善が必要」との評価を受けました。

経営を安定させ、法人の自立を達成するためには、どちらも重要な課題と認識しておりますので、具体化に向けて検討、協議を加速させてまいります。

ウ 地域福祉向上のための取り組みについて

短期入所や放課後等デイサービス事業による在宅障がい児・者の積極的な受け入れ、共同生活事業所や相談支援事業所の運営による障がい者の地域生活を支えるための支援の他、施設機能を活かしたおもちゃ図書館、スノーズレンルームの開放など、地域福祉推進の取り組みについて高い評価をいただきました。

今後、更に関係機関等との連携を強め、施設のある市町村に留まらず、地域のニーズに即したサービス展開を積極的に行い、地域福祉の向上に努めてまいります。

エ 食堂、浴室、トイレの環境について

施設の老朽化により環境改善が難しい中、清掃や消臭、採光、照明など可能な限りの工夫、改善を行ってきたところですが、「抜本的な改修が必要」との理由から、本年度も十分な評価をいただけない結果となりました。今後も、老朽化施設の整備については、県との協議を継続し、早期の改築整備を図っていくほか、可能な限り工夫、改善を進め、利用者がより快適に生活できるよう努めてまいります。

5 各評価項目にかかる第三者評価結果

(別紙)